



✓ 国立大学法人 鳥取大学

1 | セミナー開催の目的、経緯

わが国の急速な高齢化の進展に伴い退職後の人生は長期化の一途をたどっています。また、教職員を取り巻く環境がさまざまに変化する中で、文部科学省共済組合の組合員においても「生涯生活設計」等の支援の重要性が増しています。

このため本学では、鳥取県・島根県（山陰地区）の国立大学法人等の教職員を対象とした「生涯生活設計セミナー」を、島根大学と持ち回りで2年に1回開催しています。

平成29年度に島根大学で、おおむね年齢が40歳から50歳代前半の教職員を対象とした「生活設計型」でのセミナーを開催したことから、令和元年度は、おおむね50歳以上の教職員とその配偶者を対象とした「退職準備型」での開催としました。

2 | セミナーの実施内容 (プログラム等)

今回は、セミナー運営のノウハウが豊富な、教職員生涯福祉財団より提案いただいたプランでの実施としました。

開催日：令和元年11月27日(水) 9:30～16:30
会場：米子コンベンションセンター 第7会議室
対象者：鳥取大学、島根大学、米子工業高等専門学校、松江工業高等専門学校および国立三瓶青少年交流の家のおおむね50歳以上の共済組合員およびその配偶者
参加人数：39人

日程：

9:30～9:40 開会、主催者挨拶
 9:40～10:40 【実習】豊かで明るい退職後のために
 【実習】退職後の健康プラン
 10:40～10:50 休憩
 10:50～11:40 【講義】退職後の経済生活プラン(1)
 公的年金①
 11:40～12:40 昼食
 12:40～13:20 【講義】退職後の経済生活プラン(1)
 公的年金②・退職後の医療保険
 13:20～13:30 休憩
 13:30～14:40 【講義】退職後の経済生活プラン(2)
 経済生活設計表の作成
 14:40～14:50 休憩
 14:50～16:00 【実習】退職後の生きがいプラン
 【実習】生涯生活設計のまとめ
 16:00～16:30 閉会・アンケート記入、公的年金等の個別相談

3 | 工夫した点

山陰地区は東西に長く、最も東に位置する鳥取市の鳥取大学鳥取キャンパスから、最も西に位置する島根県大田市の三瓶青少年交流の家までは直線距離で150kmあります(車で3時間ほどかかります)。また、相互の交通の便も良いとはいえません。そのため、各機関のおよそ中心部に位置する、鳥取県米子市を開催地に選定しました。

また、米子市には鳥取大学の米子キャンパスがありますが、交通の便が必ずしも良くないため、JR米子駅前の米子コンベンションセンターにある会議室を借り上げて会場とし、公共交通機関で参加される人にも配慮をしました。

そのほか、より幅広い年代の人に参加をしていただけ

国立大学法人鳥取大学では、島根大学との持ち回りで、

鳥取県・島根県に立地する国立大学法人等に在職する教職員を対象とした

「生涯生活設計セミナー」を開催しています。



るよう、主催大学によって対象年齢を変える工夫もしています。今回も含め、鳥取大学主催の際には「退職準備型」で開催し、島根大学主催の際には「生活設計型」で開催しています。

4 | 参加者の反応・アンケート結果等

今回のセミナーは、参加人数は決して多くはありませんでしたが、和気あいあいとした笑いの絶えない雰囲気を実施することができました。

それぞれの講師の方の話術が非常に巧みで、参加者への問いかけやグループワークが適宜盛り込まれており、飽きさせることのない内容でした。また、テキストやプレゼンテーションもよく考えられた分かりやすい内容であったと思います。さらに、講義内容には山陰地区のデータもふんだんに盛り込まれていました。このことは、それぞれの参加者が、講義内容を自らに身近な話題として理解を深めることの大きな助けになったと思います。

なお、終了後のアンケートでは、ほぼ全ての参加者が本セミナーの内容を「大いに参考になった」「参考になった」と回答しており、好評であったと思います。

5 | 今後の課題

「4. 参加者の反応・アンケート結果等」で述べましたとおり、セミナーの内容については受講者にフィットしており、満足度が高いものであると感じています。しかし、現状では参加者があまり多くありません。

一方で、今回のセミナーに参加していない教職員と業

務上でお話しした際にセミナーの内容について触れたところ、「そのような内容であると知っていたならばセミナーに是非参加してみたかった。」といわれたことがあります（複数の教員からいわれました）。また、セミナーの開催について、そもそも知らない教職員もおり、「知っていれば出たかった。」といわれたこともありました。

つまり、セミナー自体について、教職員に十分に周知できていないことが、最大の課題であると思います。

現在は、ALLメールや学内のポータルシステムでの周知を行っています。それらにプラスして、内容を分かりやすく示し、より興味を引く周知方法の検討の必要性を感じています。また、周知の頻度も高める必要があると思います。

そのほか、アンケート結果では、早い時期（9月頃など）での開催を希望する意見や、土日での開催を希望する意見などが散見されました。また、個別相談や質問の時間をもっと設けてほしかったとの意見もありました。

これらの意見も十分に踏まえ、今後も教職員が参加しなくなる魅力的なセミナーを計画し、そして発信していきたいと考えています。



(国立大学法人鳥取大学総務企画部人事課福祉厚生係長
村上 啓)